

# 修猷館ラグビーOBクラブ

会報 平成20年10月号



## 臆せず、怯まず、迷わず！

会長 安部 直幸（昭和41年卒）

残暑の名残と秋の匂いが交錯する時期。

今年もラガーメン達にとって、待ちに待った季節を迎えた。この四月には、30年余ぶりの全国大会出場を果たした。

館長の中嶋先生はじめ学校側、諸先輩、保護者の方々、それにラグビー部OB諸兄の圧倒的なバックアップのもと、上州名物強烈な空っ風の吹きすさぶ中、久しぶりの全国大会の舞台に臆すことなく、東北の雄 青森北高に堂々たる試合振りだった緒戦。

敗者戦とはいえ、その後の東京大会で優勝した国学院久我山に拮抗した明大中野を大差でまさに「凌駕」した2戦目。

これらの現役諸君の力強いそして外連味のない戦いぶりは、今年7月に卒然と急逝した同期の柴戸敬生君が携帯電話で光明に知らせてくれた。

残念ながら仕事の都合で熊谷へ行けなかった私への思いやりであったと、彼には今でも感謝している。

「今まで見た（ラグビーの試合の）中で最高の、背筋が怖気立つような試合だった。」とは、チビッ子ラグビーの指導も長かった柴戸君の箇にして明らかな観戦談であった。

残念ながら、その後の修猷館の試合において柴戸君が感じたような印象を、私は持つことができていない。（私が鈍感なのかもしれないが・・・）

半年前の選抜出場時と比べて、現時点の選手諸君の個人スキルは明らかに上達している。

ポイントは、「闘争心」と「チームとしての意思統一」である。

### <現役諸君へのメッセージ>

勝ち負けは問わず、戦い終わった後、堂々と胸を張り、顎を上げ、笑顔で対戦相手と善戦を称えあうことのできるようなプレイを展開して欲しい。

この1ヵ月半、「友を信じて、臆せず、怯まず、迷わず」、悔いを残さぬよう精一杯戦い抜いて欲しい。

Three Cheers for  
Shuyukan Rugby football Team,  
Hippip! Hurray!!  
Hippip! Hurray!!  
Hippip! Hurray!!



合宿参加の若手OB 仁部君・有吉君・富田君（平成19年度卒）



夏期合宿風景

## 世代の壁を越えて

修猷館ラグビーOBクラブ幹事長 星野 順二（昭和42年卒）

10年一昔というが、此の時節、世の中の様変わりは3年一昔といえるのではないだろうか。

卒業して40余年、若い頃こそしょっちゅうグランドに立っていたが、ここ暫くは年2~3回のイベントに顔を出すぐらいでグランドからは足が遠のいていた状況である。

“OB会の一番の目的は現役の強化とそのサポートである”という持論を唱えている私がこのように現場認識の薄い立場で幹事長を務めて良いもんだろうか？そんな疑問を抱きつつも安部新会長を二階に押し上げて梯子を外す訳にもいかず、ここはひとつ私の青春の原点である修猷館ラグビー部の為にもう一踏ん張りしてみよう決意を新たにしているところです。

長い修猷館ラグビー部の歴史の中で今ほど恵まれた環境はなかったと思う。その中で現役諸君が何を掴みどう成長していくのか、時に厳しく時に優しくサポートする。そして世代の壁を越えた原点が同じ人間集団、そういうOB会でありたいと思っております。皆様のご協力を切にお願いします。

## 東京支部便り

東京よりご挨拶 修猷館ラグビーOBクラブ副会長 平島 正登（昭和30年卒）

本年のハイライトは4月1, 2日全国大会出場（熊谷、チャレンジ杯）でした。18年ぶりに1978年花園グランドに集結した日のことを思い出します。あの日から実に30年ぶりの慶事でした。当日 集結したOB団、中嶋館長はじめ馳せ参じた「ウルトラ弾丸ツアー応援団」バス2台、赤城おろし空つ風、桜吹雪の中の「彼の群小」、地を這う様な修猷館魂のタックルに感動を共有できた大会でした。

しかし 勝負に勝つということは集団(修猷館ラグビーチーム)の中にあって個人(選手)が1対1でトライメンに勝つと言う意識（心技体）の集結の結果でもあります。

より一層の修練と努力に期待し 花園出場を願望しております。

花園予選に向けて 阿久根 潤（平成7年卒、元日本代表）

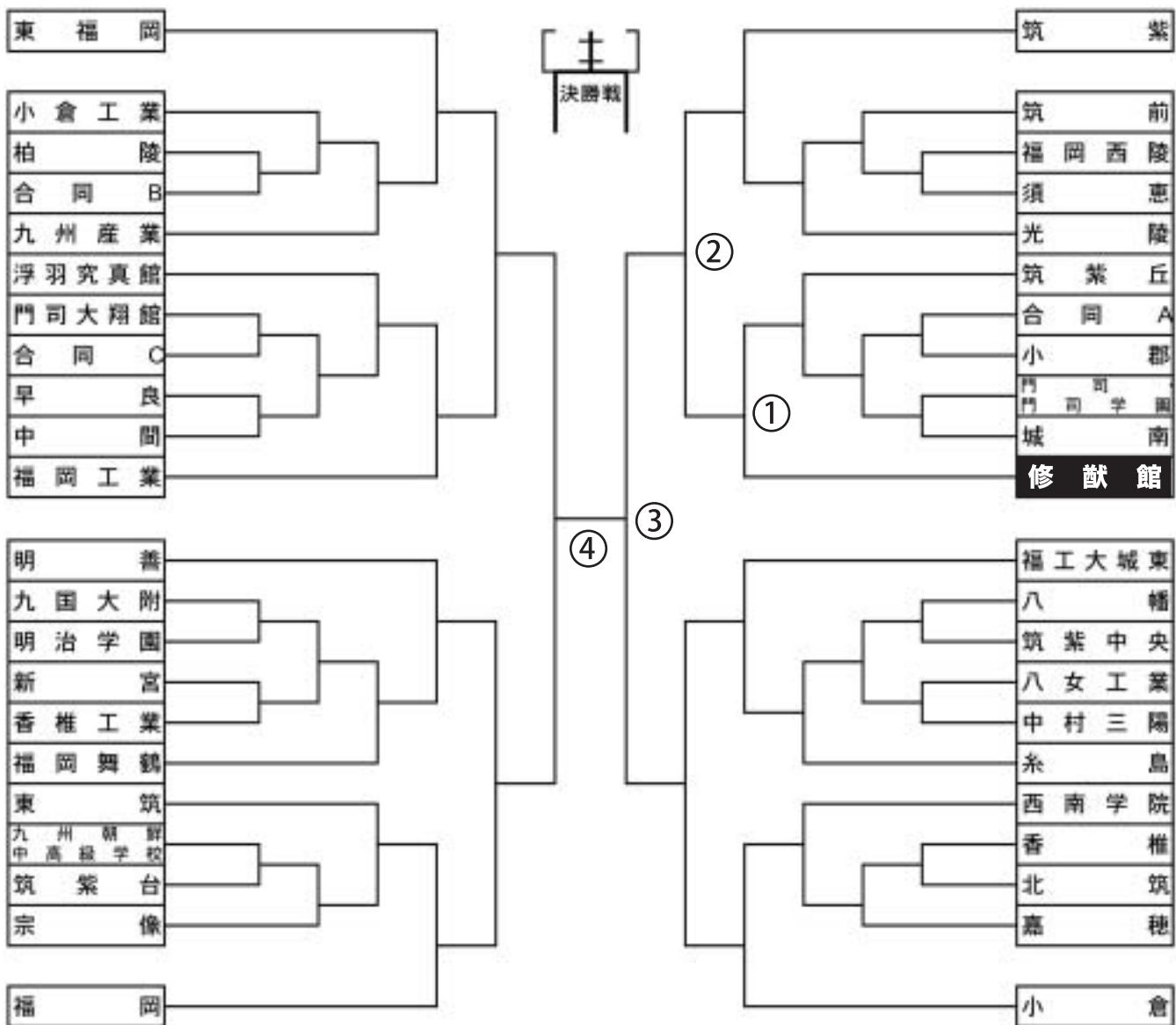
今年、修猷館を卒業して13年目を迎えた。卒業後も大学、社会人とラグビーを続けることができた。昨年、現役生活を引退したが、現役時、大学選手権優勝、さらに日本代表としてテストマッチも経験することができ、ラグビー選手として非常に恵まれたキャリアであったと感じる。しかし、今ラグビー現役生活を振り返ってみて思い出されるのは、高校3年の時、花園予選県大会2回戦で筑紫ヶ丘に10-12で負けた試合のことばかりである。最近特に、である。もし過去に戻れるのなら、当時のメンバーでもう一度試合ができるのなら、どんなに幸せだろうか。しかし、時間は前にしか進むことはできず、当然13年前のあの試合には帰れない。

現役の皆さん、これから大事な試合まで残された時間を、悔いの無いよう大事に過ごして下さい。情熱をもって毎日の練習に励んで下さい。感謝の気持ちを持って一つ一つのプレーに集中して下さい。そして、自分たちの力で勝利を勝ち取ってください。

最後に、私が大事にしている言葉を送りたいと思います。

『努力は運を支配する』

平成20年度福岡県高等学校総合体育大会ラグビーフットボール選手権大会  
兼全国高等学校総合体育大会県予選・第88回全国高等学校ラグビーフットボール大会福岡県予選大会



① 10月26日(日)12:15 会場:修猷館高校

② 11月 2日(日)11:00 会場:グローバルアリーナ

③ 11月 8日(土)14:15 会場:春日公園球技場

④ 11月15日(土)12:30 会場:レベルファイブスタジアム

# 『花園』へむけて ~現役生徒から~

入部から期待と不安で始まった修猷のラグビー生活も、あっという間に、三年間になろうとしています。この三年間を振り返ると楽しいことばかりではなく、辛いこともありましたが、僕は仲間とともに汗と涙を流しながらグラウンドを走りまわり、その仲間とともに切磋琢磨し合えてきたことが、自分の中で一生の財産になったと思います。またOBの方々には長崎や鹿児島合宿、毎回の試合などの応援を初めとして、春の選抜大会では多くの方々から多額のご支援やご声援をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

僕たちはいよいよ最後の大会を迎えます。僕の体は決して大きくはありませんが、キャプテンとして気迫のこもったタックルでチームを引っ張っていきます。また先日ケガをした平山仁の分まで、特に三年生が一丸となって一試合一試合戦い、絶対に平山を花園に連れて行きたいと思います。最後の最後までご声援をよろしくお願ひします。

**主将 飯田吉貴**

今年のチームの特徴はフォワードでも、バックスでもトライが取れるチームであることです。特にバックスは全国でも数本の指に入ると思います。

しかし、新人戦・春の九州大会予選では共に筑紫に負けてしまいました。

また、今年は幸運にも、今までの修猷館の歴史、そして先輩方が築いてこられた実績が評価されて、チャレンジ枠として全国選抜大会に出場でき、大変貴重な経験をしました。筑紫に負けた悔しさを忘れることなく、また選抜大会での経験を生かし、日々練習してきました。そして、この夏で僕たちは大きく成長したと確信しています。

ついに、花園予選がやってきます。共に練習してきた仲間の想いを込めて、一戦一戦を大切にして、相手を完膚無きまでに倒し、必ず優勝して怪我をしている平山を花園に連れてていき、また一緒にラグビーをして有終の美を飾りたいと思います。

**副将 井上雄貴**

今年のバックスは昨年のレギュラーが多く残っており、得点力のあるバックスです。特に、展開力には自信があり、チャンスの時には大きく外へボールを回しトライを狙いに行くことができます。

また、最近はフォワードに力強い縦のプレイも数多く用いるようになり、フォワードの縦、バックスの縦、そしてバックスの外への大きく振るプレイがうまく組み合せた攻撃が徐々にできるようになってきました。

ディフェンスについては、フロントスリーのディフェンスはとても堅く、めったにラインブレイクされません。バックスリーのキック処理もだんだん安定してきました。

まだまだミスが多いときもありますが、花園予選ではミス0（ゼロ）を目指し、フォワード・バックスが一体となって勝ち進んでいきたいと思いますので応援よろしくお願ひいたします。

**BKリーダー：市園拓哉**

僕たちは、東福岡を倒して花園に出場するということを目標に日々練習に励んでいます。全国でも有数の激戦区である福岡で僕たちのような個々の運動能力が高くないチームが勝つためには、低く突き刺さるタックルと球際で激しいプレイが必要だと思います。その部分を磨くことで、ディフェンスからターンオーバーしてトライという形が生まれます。このような攻撃的なディフェンスが東福岡に勝つための生命線だと思います。

また、今年は、春の全国選抜大会に出場することも出来ました。全国の強豪校と対等に戦えたことは、とてもいい経験になりました。夏には鹿児島で合宿を行い、九州の様々なチームと試合をすることで、チームのレベルアップを図ることができました。

花園予選までまだ時間があります。その限られた時間を有効に活かし、東福岡を倒して花園出場という目標を部員一丸となって達成したいと思います。

**ゲームメイカー：前田 樹**

修猷館ラグビー部のマネージャーになって、早2年半が経ちました。忙しい日々が続きましたが、その忙しさ以上に得るものは沢山ありましたし、こんなにもすばらしい集団の一員になれたことを本当に誇りに思います。

練習中、ふらふらになりながらも必死で大きな声を出し、力強くタックルを決めていく選手。部活になると人が変わったように真剣な目になる選手。さりげなく「ありがとう」と言ってくれる選手。そんな選手達の姿に私は支えられています。私も少しでも選手の力になれていたら嬉しいなと思います。

最後になりましたが、いつも応援してくださっているOBの方々や保護者の方々に、日々本当に感謝しています。北海道や鹿児島の雄大な自然の中での練習は、私達にとって大きな力となりました。ありがとうございました。

いよいよ最後の大会が始まりますが、3年間やってきた想いをぶつけて、選手・マネージャー一同本気で闘ってきます。応援よろしくお願ひします。

**マネージャー：村上裕子**



5人のマネージャーたち

## 究極の「がめ煮」

ラグビー部 顧問 杉山 英明

博多の郷土料理「がめ煮」の名前の由来は、方言の「がめくり込む」（「寄せ集める」）からきているという説があるそうです。だし汁のなかに鶏肉、里芋、椎茸、蒟蒻、牛蒡、蓮根、人参、茹で筍などを「がめり込ん」で、酒、醤油、味醂、砂糖で味付けし、野菜が柔らかくなるまで煮て出来上がり。言うまでもなく正月料理や精進料理としても作られるほど博多では欠かせない味です。

今年のラグビー部も、この「がめ煮」のように、寄せ集めの様々な素材を、それぞれの良いところを生かしながら、煮込んだり、味付けたりして調和させて、ひとつの完成されたチームになりつつあります。

とくに、今年の味として特筆すべきこととしては、最初のだし汁からうまくとれたことです。それは言うまでもなく、春の全国選抜大会に出場し、自信と誇りをつけたことです。帰福後の県外チームとの練習試合も、長崎北、長崎海星と連勝し、5月の連休の長崎遠征もほぼ勝利し手応え十分でした。佐賀工業には僅差で敗れましたが内容的には全く負けていませんでした。順調に準備を整えて臨んだはずの九州大会県予選でした。

しかし、新人戦で敗れた筑紫高校に、準々決勝でまたも敗北を喫しました。自分たちのラグビーができなかった悔しさと、ゲーム運びの脆さを痛感した忘れられない日になりました。この敗戦を教訓にして「秋に雪辱」がチーム目標になりました。

6月から基本プレーの反復、走り込み、接点での激しさ、「鋼の体」づくり等厳しい練習を続けてきました。また、週1以上のペースの練習試合（この半年で30数試合）、夏の1・2次合宿（学校と鹿児島宮之城）で経験値を増やしてきました。また、新鮮な素材の1年生も13名入り、2年も含めて若手が台頭して、チームに新しい味が生まれてきました。総員57名の中でチーム内競争が激しくなり、日替わりでAチーム（レギュラー）のメンバーが変わる状態になりました。このような切磋琢磨の環境でチームの総合力も明らかに向上してきました。経験を重ねることでプレーに磨きがかかり、いい味が出てきた特筆すべきプレーヤーも増えました。

今年の主将FLの飯田吉貴は、率先垂範タイプの素晴らしいリーダーに成長してきました。何事にも前向きで、一日も休まず常に大声でチームを鼓舞して引っ張ってきました。プレーもタコのように体全身を使って相手のサイドアタックにからみつき、そのまま「ジャッカル」に持ち込みます。試合中一番怒っているフッカーの井上雄貴は、春から最も伸びた生徒の一人です。ゲームプランやプレーの意味を深く考え、勝負にこだわりをもつムードメーカーに成長しました。プロップの中澤亘将、藤内崇史のがんばりでスクラムも強くなり安定したこと、ゲームメイクがやり易くなりました。

BKでは、両CTBの大石陽介と前田樹のセンスあるコンビが機能し始め、攻撃的なアタックで突破力が伸びました。怪我から復帰してFBに変わった鎌水遼は、DFのギャップを見つけてスピードで抜き去るテクニックを磨き、チャンスメーカーとしてチームに貢献してきました。WTBの田中朋は、縦を突くスピードとパワーに優れ、思い切りの良いプレーでチームを救う場面が増えました。それぞれが、「仲間のため」「チームのため」に、自分ができる最大のプレーを体を張ってとことん出し切る。修猷ラグビーの核心の部分を生徒が体得してきたようです。

この半年で、寄せ集められた天然の素材や少し手が入った素材が、百道浜の砂の鍋のなかで、しっかり煮込まれてきました。OBの方々の叱咤激励という、心のこもった適度の調味料のおかげで、それぞれの素材に深い味わいと旨味もでてきました。「東」や「南」や「北」に優る究極の味にするために、この1ヶ月で、代々受け継がれてきた修猷秘伝の「かくし味」を入れて、もういちど一煮立ちさせて仕上げ、秋の決戦では、闘魂あふれる究極の修猷ラグビーを披露したいと思います。

## 全国からのお便り

＊名古屋に来る前は、山形おり、山形南高校というところで土日はラグビーを教えていました。正直、山形県のレベルは福岡のそれと比べると相当低く、10年間花園に出場している山形中央高校を見ても、この程度で花園にいってしまうのか、と憤りを感じたこともあります。

でも、やっぱり高校ラグビーはいいですね。今の修猷にもやっぱり期待してしまいます。またお会いできるのを楽しみにしています。今後とも宜しくお願ひいたします。

田原 伸洋（平成12年卒）名古屋より

＊先日は修猷館ラグビー部の選抜大会出場の知らせと試合結果に、一喜一憂しておりました。現役の選手の活躍は、今の自分を奮い立たせてくれます。

私は現在、北海道大学のラグビー部に所属し、修猷卒の仲間たち（H18卒橋本、H19卒平松）と共に日々ラグビーに励んでおります。

福岡から遠く離れた北海道ではありますが、北大ラグビー部に同じ高校から3人も所属しているのは修猷だけです。北大ラグビー部は去年のインカレ予選で北海道を制覇し、今年は東北も含めた北日本を制覇することを目指しています。

私たちも日々の練習から修猷で学んだことを存分に發揮し、その目標の達成のために少しでも力になれるよう努力しています。現役選手から力をもらった分、自分たちの活躍でまたそれを現役選手にも還元できればと思っています。

私自身も何かお役に立てることがあれば喜んで協力したいと思います。それでは、今後ともよろしくお願ひします。

及川 拓（平成18年卒）北海道より

＊昨日は、中京修猷会で講演会を開催しました。23人の出席で東京の弁護士高木佳子さん（38年卒）の「裁判員制度」の話と質疑応答です。盛会でした。

瑞穂で名古屋ラグビースクールの指導員をしています。自分たちの試合もあり、楽しんでいます。

満生 修二（昭和45年卒）愛知県在住

【事務局より】

日本全国、いや世界中で修猷ラガーマンが奮闘されています。皆さんのお便りをお待ちしています

## 会費納入のお願い

我が修猷館ラグビーOBクラブは、修猷館ラグビー部を強力にサポートする事を主目標に活動しております。現役の数はここ十年来、常に五～六十名を数え、一昔前と比べたら倍近い生徒達がラグビーに勤しんでいるのが現状です。

この大所帯の現役をサポートするために、ぜひともOBの皆様のご協力を仰ぎたいと切望する次第でございます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

年会費	学生	2,000円
	社会人	5,000円
	賛助会員	3,000円
	70歳以上の方	無 料 (御篤志を承ります)

## 初蹴りについて

毎年恒例の初蹴り会を、正月二日、修猷館グランドにおいて行います。今年はOB戦をunder40とover40と二試合行いたいと思っております。往年の修猷ラガーの皆さん、グランドでお会いしましょう。詳しくは後日御案内いたします。

事務局 松尾 邦雄

## お知らせ

「天晴くんを救う会」への協力について

亀岡君（昭和50年卒、神奈川県在住）から協力依頼の連絡がありました。修猷ラグビーOBクラブの皆様のなかで、ご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、ご協力をよろしくお願ひします。

千葉市在住の岩田天晴くん（13歳）は2008年2月に拡張型心筋症を発症し、現在、東京大学附属病院に入院中です。拡張型心筋症は、心臓の筋肉が拡張し薄くなり、やがては死に至る特定疾患指定の難病で、天晴くんのように悪化すれば、心臓移植以外に助かる途がありません。しかし、15歳未満の臓器提供が法的に禁止されている日本では助けて頂ける可能性は殆どなく、米国のUCLA病院で心臓移植手術をすることになりましたが、その費用は1億円を超えるものになります。健康保険などの公的なサポートが一切ないため、とても個人でまかなえる金額ではありません。

天晴くんの父親は、大阪の北野高校、京都大学、博報堂のラグビー部で活躍したラガーです。父親の沢山のラグビー仲間が「天晴くんを救う会」の活動に主体的に関わりラグビー関係者への支援を求めてています。

詳細は「天晴くんを救う会」ホームページをご覧ください。  
<http://www.tensei-aid.com/>

## 編集後記

暑かった夏も過ぎ去り待望のラグビーシーズンの到来です。OBの皆様には益々ご健勝のこと存じ上げます。現役の若きラガー達も苦しい合宿を乗り越え一段とたくましくなり、全国大会をめざして日夜鍛錬に勤しんでおります。（この目で見てまいりました）

全国大会に向けて、福岡のOBの皆様は実際に力強いエールを、日本各地のOBの皆様は心の中で”修猷ラガー頑張れ”と念じてください。よろしくお願ひいたします。

発送間際に上記お知らせの「天晴くんを救う会」の募金活動が目標達成されたとの連絡がありましたので、ご報告いたします。

●発行／  
修猷館ラグビー部OBクラブ

事務局／

松尾 邦雄(S46年)

〒811-1347

福岡市南区野多目5-10-45

T E L : 092-541-5503

携 帯 : 090-3012-0903

F A X : 092-551-7290

e-mail : mactaiho@san.bbiq.jp